

予測される 温暖化の影響

© WWF / www.JSGrove.com

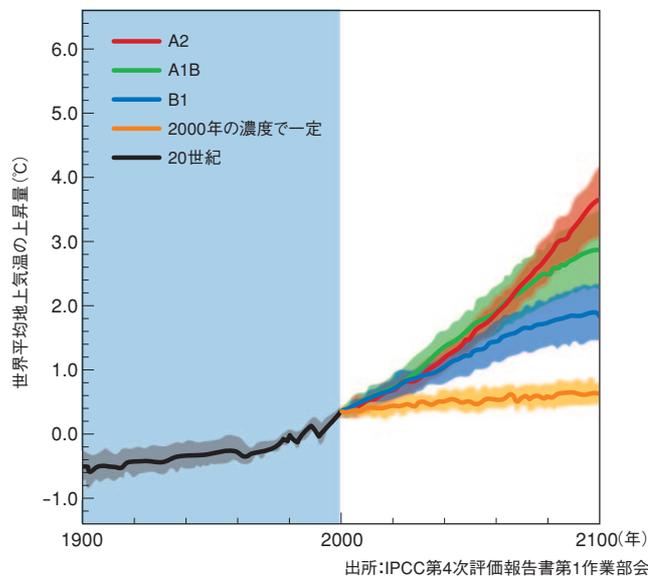
今後どのくらい 気温はあがる？

IPCC(気候変動に関する政府間パネル)は、今後100年間、地球温暖化によってどのくらい平均気温があがっていくかについて予測しています。今のまま化石燃料を燃やしつづけていくシナリオ(A2)から、環境と共存するシナリオ(B1)まで6つのシナリオを想定して、それぞれに今後100年間で予測される気温上昇の幅を示しています(図2)。それによると、シナリオによって1.8度から4度の上昇が予測され、最大では6.4度も上昇する可能性があると考えられています。

深刻化していく 温暖化の影響

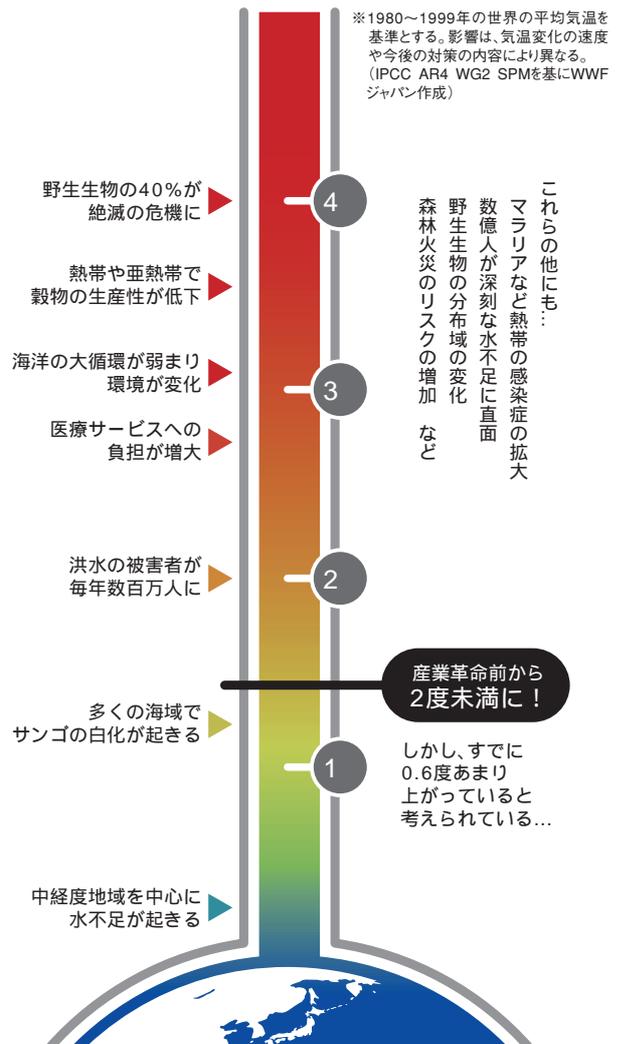
地球温暖化の悪影響は、今後さらに深刻化していくことが予想されています。第2作業部会の報告書で

図2 世界の平均気温の上昇の推移と将来予測



は、今後の平均気温の上昇により、どのような影響が世界各地で予測されるかを詳しくまとめています(図3)。すでに北極では、2007年9月24日に海水面積が過去最小を記録し、今世紀終わりには、夏期の海水がすべてなくなってしまうと予測されています。生態系に重大な影響が出始めており、2006年にはホッキョクグマが、今から100年以内には絶滅してしまうという絶滅危惧種の危急種に指定されました。今後1度以上平均気

図3 21世紀の気温上昇により懸念される影響



温が上昇すると最大で30%の種で絶滅リスクが増加し、3度から4度の上昇では地球規模での重大な絶滅(40%)が予想されています。また、世界の人口の6分の1以上が水不足に苦しむと指摘されています。干ばつや熱波、台風の強大化などの異常気象の増加も予測されています。こうした干ばつや水不足は、地域の紛争を激化させます。いまある世界の貧困や飢餓などをさらに悪化させてしまうのです。

日本もちろん例外ではありません。気象庁の「異常気象レポート2005」によると、日本でも、すでに酷暑による熱中症の増加や農作物、家畜への被害が出ており、相次ぐ台風の上陸や、梅雨末期の大雨や洪水が多発しています。そして今後、真夏日が増えることが予測されているだけではなく、大雨の増加、海面上昇による海岸侵食や、高波の被害などが予想されます。農業や漁業に与える影響は深刻で、栽培する作物を変えたり、暑さに強い品種への改良などの対応が早急に必要となってきます。

IPCCは、気温の上昇が2度から3度以上である場合には、先進国、途上国問わず地球上のすべての地域において、悪影響に対応するコストがかかってくるとしています。私たち人類がなんとか地球温暖化の悪影響に対応しながら生活していくためには、気温の上昇を2度未満に抑えることが必要であることを、IPCCは指摘したのです。

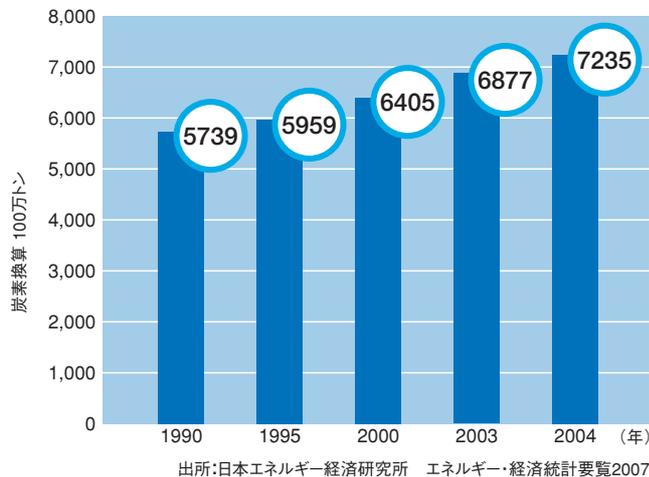
悪影響に対応する 必要性: 適応

地球温暖化の悪影響に対応することを「適応」と言います。日本は経済的に豊かですから、堤防を築いたり、農作物の品種改良をしたりという「適応」に、資金的にも技術的にも対応することができますが、世界には全くその手段や資金を持たない途上国が多くあります。そして最も経済発展していない、つまり地球温暖化を引き起こす温室効果ガスを出していない途上国ほど、地球温暖化の悪影響をもっとも強くうけるという矛盾も、IPCCは指摘しています。

地球の生態系が吸収できる量の 倍以上を排出している私たち

主要な温室効果ガスであるCO₂(二酸化炭素)の排出量は、1990年以降も依然急速に伸びており、現在は

図4 世界のCO₂総排出量の推移



世界全体でおよそ70億トン(炭素トン)以上となっています。それに対し、地球全体の森林や海が吸収できる量は、約31億トンと言われています。つまり、私たちは、地球が自然吸収できる量の実に2倍以上も毎年排出しているのです。当然、地球が吸収できない量、毎年約40億トン近くがどんどん大気中にたまっており、それが地球を暖めつづけているわけです。私たちは、近い将来、地球が吸収できる量とバランスがとれるまで、排出量を減らさなければならないのです。

科学は、温暖化の深刻さと、 その防止策とコストを示した。 あとは私たちの行動に かかっている!

2007年11月に、IPCCは、2月から5月にかけて3回にわけて発表してきた報告書をまとめて、政策決定者に向けた要約「統合報告書」を発表しました。ノーベル賞授賞式の直前となった統合報告書の発表の席で、IPCCのラジャンドラ・パチャウリ議長は、「科学はやることをすべてやった。あとは政治にゆだねられた。危険な地球温暖化を防ぐために、国際交渉で世界が合意して、ただちに動くことが求められている」と話しています。

地球温暖化は深刻化しています。その悪影響は地球上すべての生物に及びます。まずは世界で初めて地球温暖化防止のために削減義務を定めた国際条約である「京都議定書」の削減目標を確実に達成すること、そして、もっと大幅な排出削減を可能にする次の枠組みに合意することが必要です。私たちの決意と、今すぐに行動を起こすことが、地球温暖化から地球を救えるのです。

(執筆: WWF ジャパン 小西雅子)